

大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩）〔ベンタゾン液剤〕の使用に当たって

平成17年4月6日付で新規登録された「大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩）」は、だいに使用した場合一過性の薬害（斑点、色抜け、黄変、萎縮症状など）が生じることが確認されており、品種やその他の条件によっては、減収する恐れがある。

本県では、平成17年度に奨励品種である、「サチユタカ」に対する実証試験を実施し、薬害の程度や減収について検討を行った。その結果、一過性の薬害は見られるものの、減収には至らないことが確認された。ただし、薬害の程度は、気象条件や生育状況などに大きく左右されるため、条件によっては減収する恐れがあり、十分な注意が必要である。

このことから、**本剤は、JAなどの指導機関から、次に掲げる事項などの説明を受け、理解した生産者のみが、購入・使用できることとする。**

1 導入にあたっての留意事項

- (1) 必ずJAなどの指導機関より説明を受け、本剤の特性を十分理解して使用する。
- (2) 「大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩）」は、だいにのみ登録されたものであり、だ以外には使用しない。

2 使用に当たっての注意事項

- (1) 使用前に必ずラベルを読み、使用方法及び使用上の注意事項を遵守する。
- (2) 収量などへの影響確認が行われている品種のみで使用する。
- (3) 生育不良のだいずでは、薬害の発生を助長する恐れがあるので、使用しない。
- (4) 著しい高温が続く場合や日射が強く蒸散が盛んな場合は、薬害を助長する恐れがあるので使用しない。
- (5) 収量などへの確認が行われていない他剤との混用は避ける。
- (6) 飛散（ドリフト）による周辺への影響がないよう注意する。
- (7) 雑草の種類によっては、効果が劣る場合があるので、雑草の発生状況を確認し使用する（次ページ 参考資料【大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩）の畑地雑草に対する草種別効果】を参照のこと）。

3 その他の注意事項

- (1) 水稻などに登録のある「バサグラン液剤（ナトリウム塩）」は、だいに登録がないため、だいずには使用できない。
- (2) 散布年月日、使用場所、農薬の名称、使用量など、使用に関する情報を記帳・保存する。
- (3) 枝豆集荷の予定のあるほ場では使用しない。

参考資料【大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩）の畑地雑草に対する草種別効果】

◎：よく効く，○効く，△：劣る，×：効かない

科名	雑草名	効果	科名	雑草名	効果
タデ科	アメリカサナエタデ	◎	カヤツリグサ科	カヤツリグサ	◎
	イヌタデ	◎	アカネ科	ヤエムグラ	◎～○
	エゾノギシギシ	◎	ヒユ科	アオゲイトウ	△
	オオイヌタデ	◎		イヌビユ	△
	オオハルタデ	◎		ハリビユ	△
	ソバカズラ	◎		ホソアオゲイトウ	△
	タニソバ	△		ホソバツルノゲイトウ	○～△
	ハルタデ	◎		ホナガイヌビユ	○～△
	ヤナギタデ	◎	ゴマノハグサ科	アゼナ	◎
キク科	アメリカセンダングサ	◎		オオイヌノフグリ	△
	アメリカタカサブロウ	◎	ヒルガオ科	ホシアサガオ	△～×
	アレチノギク	◎		マメアサガオ	○～△
	イヌカミツレ	◎～○		マルバアサガオ	○～△
	オオオナモミ	◎		マルバアメリカアサガオ	△～×
	オナモミ	◎		マルバルコウ	○～△
	タカサブロウ	◎～○		アカザ科	アカザ
	トキンソウ	◎	ゴウシュウアリタソウ		△
	ナタネタビラコ	◎	シロザ		△
	ノゲシ	△	ツユクサ科	ツユクサ	△
	ノボロギク	◎	ナス科	イヌホオズキ	○～△
	ハキダメギク	△		オオイヌホオズキ	△～×
	ヒメジョオン	◎		ヒロハフウリンホオズキ	△～×
	ヒメムカシヨモギ	◎		ホソバフウリンホオズキ	○～△
	ブタクサ	○	トウダイグサ科	エノキグサ	△～×
スベリヒユ科	スベリヒユ	◎		オオニシキソウ	×
アブラナ科	イヌガラシ	◎		コニシキソウ	△～×
	スカシタゴボウ	◎	ニシキソウ	△～×	
	タネツケバナ	◎	シソ科	ホトケノザ	△
	ナズナ	◎	クワ科	クワクサ	△～×
ナデシコ科	オランダミミナグサ	◎	ザクロソウ科	ザクロソウ	△～×
	ノミノフスマ	◎	マメ科	カラスノエンドウ	△
	ハコベ	◎		クサネム	△
アオイ科	イチビ	◎		ツルマメ	△～×
ムラサキ科	キュウリグサ	◎	イネ科雑草	—	×
	ハナイバナ	◎			

●薬量:100～150ml/10a(雑草茎葉散布) ●処理時期:雑草生育初期～6葉期まで[だいで用 茎葉処理除草剤 大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩)技術資料 Ver.4(BASF ジャパン 2015. 11) より]

注. 農薬登録は令和2年1月10日現在